

多良間島の洞窟地下水域から新種のアミ類を発見

多良間島の洞窟地下水域から新種のアミ類（甲殻類の一つのグループ）が発見され、京都大学の下村通誉 博士と沖縄県立芸術大学の藤田喜久 博士の共同研究によって、2020年12月14日付けで学術雑誌「ズータクサ (Zootaxa)」に発表された。今回の新種は、体長が約 3.5 mm 前後の小型種であり、多良間島の集落内に存在する 1 箇所の洞窟地下水域から採集された。また、今回の新種に対する新標準和名として、本種の発見地である多良間島にちなみ、「タラマミアミ」を提唱した。

<解説>

1. 今回、新種記載された「タラマミアミ」について

アミ類は、フクロエビ上目アミ目アミ科に属する小型の甲殻類であり、その多くは海域に生息する。一般的に、アミ類の雌では、頭胸部の下側に「育房」をもち、卵は其中で孵化・成長して、親とほぼ同型に成長してから環境中に放出されることが知られている。

今回の新種は、体長約 3.5 mm 前後の小型種であり、集落内にある洞窟の地下水域から採集された。今回の新種が所属する *Heteromysoides* 属には、これまでに世界から 12 種が知られていたが、本種の形態を詳細に観察したところ、眼、第 2 触角、第 3 胸肢、尾節の形態により、既知種と異なることが明らかとなった。

なお、本論文にて、当該新種の学名（種小名）として「*Heteromysoides taramensis*（ヘテロミソイデス・タラメンシス）」を提唱した。種小名の「*taramensis*（タラメンシス）」は、本種の採集場所である多良間島に由来しており、標準和名として、「タラマミアミ」を提唱した。

2. 今回の発見の意義

今回の新種が発見された多良間島は、宮古島と石垣島の上に位置する、島の周囲約 15km で、島の海拔高度 34m の典型的な低島である。島のほぼ全域が多良間県立自然公園に指定されている。同島は大部分が琉球石灰岩で構成されているため、河川はないが、地下水環境が発達し、島の各所に洞窟地下水域がある。

著者らは、長年にわたり琉球列島の洞窟地下水環境や海底洞窟環境における甲殻類相の研究を続けてきたが、今までに、陸域の洞窟地下水環境においてアミ類が発見されたことは無かった。今回の洞窟地下水域からのアミ類の発見は、琉球列島のみならず、日本でも初めての事例となる。また、今回の新種が見つかった洞窟地下水域は、潮の満ち引きによって水位が変動するアンキアライン環境（地下で海と接続する汽水的環境）であるが、本種が生息する場所は「ほぼ淡水（ほとんど塩分が含まれない）」の場所であった。アミ類の多く（全体の90%以上）は海産種であり、陸水域に生息する種自体が少なく、この点でも貴重な発見である。また、今回の新種と近縁な種（ドウク

ツトゲメアミや*Heteromysoides kumejimensis*) は、琉球列島の海底洞窟（アンキアライン海底洞窟）からも見つかり、これらの種との関係性（系統類縁関係）や海域から淡水域への移行を考える上でも興味深い種である。

著者の一人（藤田）は、現在までに、同島の7箇所の洞窟地下水環境および井戸において生物調査を実施したが、今回の新種は、同島北部の集落内にある1箇所の洞窟地下水環境のみから発見された。現在のところ、本種が生息する洞窟の環境は良好であり、本種の生息個体数も多いが、他の場所では見つからないため、今後、保全の取り組みを行う必要があると考えられる。

なお、本研究の一部は、藤田喜久を代表研究者とした日本学術振興会の科学研究助成事業（科研費：No. 20H03313）の支援を受けて行われたものである。

3. 論文の詳細

Shimomura, M, & Fujita, Y., 2020. *Heteromysoides taramensis*, a new species of mysid (Mysida: Mysidae) from an anchialine cave on Tarama Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan. *Zootaxa*, 4895: 135–145. (<https://doi.org/10.11646/zootaxa.4895.1.8>)

4. 問い合わせ先

[論文筆頭著者] 下村通誉（京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所・准教授）：メール.

[共同研究者] 藤田喜久（沖縄県立芸術大学・准教授）：メール；携帯電話.

5. 提供可能資料

標本写真および生息環境の写真（jpg ファイル / tif ファイル）



タラマメアミ（標本写真：側面）



タラマメアミが採集された洞窟地下水